

第一〇八回
川崎市定期能

能と狂言



能「通小町」友枝昭世
撮影：あびこ写真店



能「六浦」香川靖嗣

第一部

12時30分開場
13時00分開演

狂言
佐渡狐
【さとぎつね】

山本則俊(大蔵流)

能
六浦
【むつ】

香川靖嗣(喜多流)

平成28年8月6日(土)

会場：川崎能楽堂

入場料：各部 4,000円(全席指定)

第二部

15時00分開場
15時30分開演

狂言
伯母ヶ酒
【おほがさけ】

山本泰太郎(大蔵流)

能
通小町
【かよこまら】

友枝昭世(喜多流)

◆チケット発売日／平成28年7月6日(水) 午前9時より川崎能楽堂窓口にて発売(先着順)

*残券があれば、同日正午より電話でも販売いたします。*チケットは、お申込み1件につき、各部2枚までの販売とさせていただきます。

◆チケット取扱・お問合わせ／川崎能楽堂 TEL.044-222-7995 川崎市川崎区日進町1-37

◆受付時間／窓口・電話 9:00~17:00 *但し初日のみ電話受付は正午から。窓口完売の際は電話での受付はいたしません。

主催：(公財)川崎市文化財団 川崎市川崎区駅前本町12-1 川崎駅前タワー・リパーク3F TEL.044-222-8821/FAX.044-222-8817

*開演後にはご入場いただけない場合がございます。また、出演者等変更になる場合がございますので予めご了承ください。なお、ご購入いただいたチケットのキャンセルや変更はできません。

第108回 川崎市定期能 能と狂言

【第一部】 午後1時 開演(午後12時30分開場)

狂言 佐渡狐【さどぎつね】

佐渡の国と越後の国の百姓が年貢を納めに都へ行く途中、道連れになります。越後の百姓は佐渡には狐がいまいだらうと言ひ、佐渡の百姓はいると言ひ張ります。2人は腰の刀を賭けることにしますが佐渡の百姓は狐を見たことがないので姿態がわかりません。都の領主の館に着くと、佐渡の百姓は奏者(取次役)に年貢を納めるついでに事情を話し、賄賂を贈ります。みかえりに奏者は、佐渡の百姓に細かく狐の姿を教えます。あとからきた越後の男が佐渡の男に狐に関する質問をすると、佐渡の男は奏者の助けて賭けに勝ち刀を取って去りますが……。

シテ(奏者)……………山本 則俊 アド(越後の百姓)……山本凜太郎
アド(佐渡の百姓)……山本 則秀

能 六浦【むつら】

秋の季節、都の僧(ワキ)が東国行脚の途中、相模国の六浦に着き、称名寺に立ち寄ることにします。

山々の紅葉が盛りのなか、本堂の庭にある一本の立派な楓だけが、一葉も紅葉していません。不審に思っていると、一人の女(前シテ)が現われます。この楓のことを尋ねると、そのわけを語って聞かせます。昔、鎌倉の中納言(なまご)がこの寺に紅葉を見に来たとき、山々の木はまだ紅葉していないのに、この木一本だけが色濃く紅葉していたので、一首の詩を詠じたところ、楓の木はそれを名誉として身を退くこととし、その後紅葉することをやめたのだと語り、その女は自分がこの楓の精であると告げ消え失せます。(中入)

その夜、僧が読経していると、楓の精(後シテ)が現われ、草木国土悉皆成仏の仏徳を讃え、舞を舞います。そして、夜明けとともに消えてゆきます。

シテ(里女・楓の精)……香川 靖嗣	後見……………友枝 雄人
ワキ(旅僧)……………森 常好	……………友枝雄太郎
ワキツレ(徒僧)………森 常太郎	地謡……………大村 定
アイ(六浦所の者)……山本泰太郎	……………中村 邦生
笛……………栗林 祐輔	……………長島 茂
小鼓……………森 貴史	……………友枝 真也
大鼓……………大倉慶乃助	……………塩津 圭介
太鼓……………小寺真佐人	……………谷 友矩

【第二部】 午後3時30分 開演(午後3時開場)

狂言 伯母ヶ酒【おばがさけ】

酒屋を営む伯母を甥が訪問します。伯母は一度も酒を振舞ってくれたことがないので、今日こそはと店を訪れいろいろと口実をもうけては何とか酒を出させようと思しますが、伯母はその手にはのりません。

そこで、この付近には近頃鬼が出るとの噂があると脅かしておいて、甥は帰ると見せかけて、鬼の面をかぶり改めて伯母の店を訪ねます。恐れ逃げ惑う伯母に鬼は大声で脅して酒を飲ませろと迫り酒蔵で酒を飲み始めるのですが……。

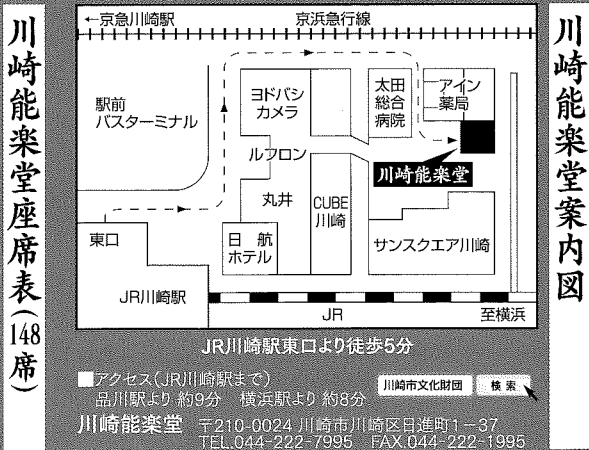
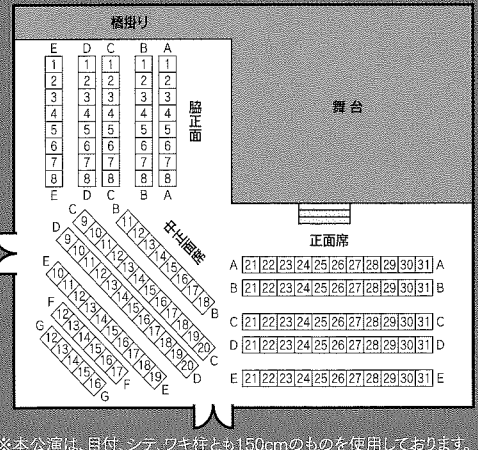
シテ(甥)……………山本泰太郎 アド(伯母)……………山本凜太郎

能 通小町【かよいこまち】

洛北八瀬の里に住む僧(ワキ)のもとへ、毎日木の実や薪を持ってくる女(前ツレ)があります。僧に素性を問われると、女は小野小町の歌を口ずさみ、市原野に住む者であると言ひ残して消えてしまいます。その言葉つきから小野小町の亡霊ではないかと察した僧は市原野に赴き、小町の亡き跡を尋ねます。すると小町の亡霊(後ツレ)が現れ、僧に授戒を請います。続いて深草少将の怨霊(シテ)が現れ、私を残していくのかと恨み、小町の成仏を妨げます。僧は、共に戒を受けよと言ひ、深草少将の怨霊に対して、懺悔の為に百夜通いの様を見せるように説きます。少将は請われるままに、雨の夜も雪の夜も小町を慕って通いながら、九十九日夜目、恋の成就する絶頂で死した昔語りを狂おしく再現して見せ、二人は成仏します。

シテ(深草少将の霊)……友枝 昭世	後見……………香川 靖嗣
ツレ(里女、小野小町の霊)……佐藤 陽	……………友枝雄太郎
ワキ(僧)……………森 常好	地謡……………大村 定
笛……………栗林 祐輔	……………中村 邦生
小鼓……………森 貴史	……………長島 茂
大鼓……………大倉慶乃助	……………友枝 雄人
	……………友枝 真也
	……………塩津 圭介

次回公演のお知らせ
平成28年10月15日(土)
狂言全集 第八回
大蔵流狂言山本家
「鬼瓦」佐渡狐(二氣巻)
出演：山本東次郎 山本則俊、山本則重 ほか
平成28年12月10日(土)
第109回 川崎市定期能
能竹生島(女)「巻納」ほか
出演：梅若玄祥、角島行雄 ほか



※本公演は、目付、シテ、ワキ柱とも150cmのものを使用しております。